令和 6 年度日本獣医動物行動研究会ニュースレター企画（案）

2024 年 03 月 07 日

広報担当　岸野友祐

研究会の目的が、行動診療の発展、臨床獣医師や一般の飼い主への啓発活動であることを踏まえ、広報のあり方を再度整理し、ニュースレターの新たな形を提案したい。

（１）これまでのニュースレターの記事

No.19～25 のニュースレターで発信してきた記事は以下の**表１**のとおりである。

表１．ニュースレターの内容一覧（括弧内の（数字）は号数を示す）

１．組織改編に伴う紹介
・新会長ご挨拶、深掘り（22） ・新幹事の紹介（19）
２．試験関連
・認定医紹介（25、21、19、18） ・研修医紹介（24、22、20） ・プラクティショナー紹介（25、23、22）
３．研究会主催イベントの感想
・総会時教育セミナー感想（24、19） ・20 周年記念シンポジウム感想（21） ・懇親会の感想（24） ・JBVP の感想（18） ・ベーシックセミナー（18）
４．会員の窓
20 堂山 有里、21 茂木千恵、22 武田繁幸、23 礒見優、24 岸野友祐、25 河内 由紀
５．不定期コラム
・行動学コラム認定医の先生に聞いてみた（24/No.2 椎木亜都子、23/No.1 鵜海 敦士） ・コラム：認定医とは（20 入交） ・海外ケースレポートからの学び（23/吉川、小澤） ・日本と米国の違いコラム（19 尾形）
６．事務連絡系
推薦図書がバージョンアップしました（24）、広報委員会からお知らせ（23Facebook の案内）、事務局からお知らせ（25 総会の案内、23Mii+の案内、22 会員管理システム導入予定の周知）、21 旧年度の感想、20 会費納入、会員情報更新のお願い、19 旧年度の感想

記事は、大きく分けて１～６の、組織改編に伴う紹介、試験関連、研究会主催イベントの感想、会員の窓、不定期コラム、事務連絡系に分かれる。

これら１～６は、以下の**表２**のように、特徴ごとに三つのグループに区別することができる。

表２　特徴ごとに３つのグループに分かれる記事

グループ	説明	内訳	掲載頻度・内容
事務連絡	組織運営に必要な情報共有 会員の肩書の変化	１．組織改編に伴う紹介 ２．試験関連 ６．事務連絡系	定期的・運営主体
広報主体	広報が内容、執筆者を指定する	３．研究会主催イベントの感想 ５．不定期コラム	不定期・運営主体
広報以外主体	会員が内容、執筆者を指定する	４．会員の窓	定期的・会員主体

事務連絡の記事が最も多く、かつ定期的に掲載されていた。次に広報主体の記事が多いが、不定期で内容はその時々で大きく異なっていた。広報以外主体の記事は最も少なく会員の窓のみであるが、毎号掲載されていた。各グループの占める割合はイメージとしては**図１**のように表される。

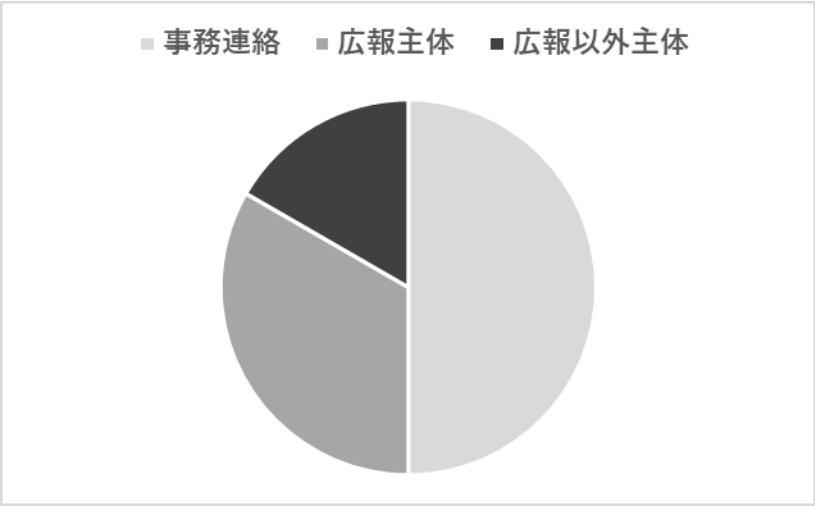

図１　各グループがニュースレターに占める割合

（２）今後のニュースレターの作成にむけての提案

以上を踏まえ、ニュースレターをよりよいものにするために、以下の提案をしたい。

１．「行動診療の発展」という目的のために

表２で見たとおり、ニュースレターの記事は主に事務連絡と広報主体がほとんど全体を占めている。**図２左**のように、ニュースレターの発信源は運営側に大きく偏っていると言える。今後は、むしろ発信源を会員側とすることで、会員の主体的な参加を促したり、専門からやや離れた臨床家の現状を把握することができたり、会員数 400 人を超える研究会の規模を活かすことができるのではないか（**図２右**）。

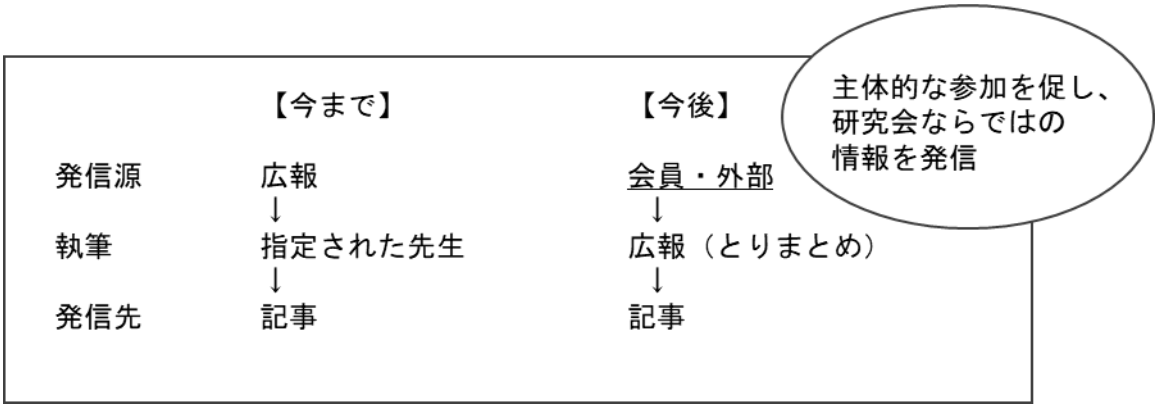

図２　今までと今後の、情報の発信源の比較

具体的な会員主体の企画としては以下のようなものを考案した。

・会員おすすめの本、サイトの紹介

行動診療やその関連分野を学ぶ上で有益な本、インターネットサイト等について、紹介したい者が記事を書く。研究会の推薦図書も対象。どのような点が有益か、活用例などのエピソードを交え記事にする。会員が見つけた、気がついた有益な情報を、その他の会員が広く知る機会となることを目標とする。

・会員のメディア出演の広報

研究会所属の獣医師が、雑誌への寄稿、ペット関連サイトの執筆、講演会などを行った実績等を広報する。もしくは、記事が URL などで読むことができるものに限る（実績だけ載せても仕方がないので、学ぶ機会になるものに限る）方がよいか、対象人物は認定医や研修医などに限定する科要検討。目的は、行動診療科獣医師の広い活躍を紹介することで、社会へ発信することへの動機づけとする。

・会員向けの行動診療科獣医師の求人や研修医の募集

研究会所属の獣医師が、行動診療科獣医師が募集している求人や研修医の情報を広報する。発信元は認定医や専門医に限り、求人も行動診療科専属の場合に限る等、目的外の使用がなされない手段を講じる。行動診療を学びたい会員と、学ぶ機会を提供したい会員が結ばれる機会を広く提供する。

・推薦図書総選挙（おすすめ）
現時点で研究会の推薦図書は 58 冊にのぼるが、その詳細や評判について知る機会は限られている。会員が実際に使用し良かった図書へ投票を募ることにより、会員らがより推薦図書に触れる機会を増やすことを目的とする、

・行動診療アンケート（例えば、苦手な問題行動、好きなおもちゃ、おすすめハーネスとか）
行動診療科獣医師同士が集まると、話題には事欠かさない。例えば難しい症例、苦手なこと、よかったオモチャ、よかったオヤツなど、交換し合える情報は非常に多い。こういったトピックスについてアンケートをとり公表することで、情報交換が促進され、行動診療の発展につながると考える。

２.「臨床獣医師、一般の飼い主への啓発」という目的のために
　本来の広報の役割は、組織の活動を社会に報じ、認知度を上げたり理解してもらうことにある。つまり組織の外へ情報発信していくことにある。対してニュースレターは、組織内への情報発信を目的としているが、今回提案する企画により、組織の外へのつながりをもたらすこともできるのではないかと考える（**図３**）。

	【今までのﾆｭｰｽﾚﾀｰ】	【本来の広報の役割】	【提案したい企画】
発信源	内	内	外
	↓	↓	↓
発信先	内	外	内

図３　今までのニュースレターの機能と、新たに提案したい企画の比較

　具体的な組織外とのつながりをもたらす企画としては以下のようなものを考案した。
・行動診療以外で、問題行動の解決に取り組む人へのインタビュー
　実社会で活躍するトレーナーへのインタビューを行う。問題行動の治療という同じ目的をもち、プロとして活躍している人から得られる情報は、今までの研究会では得られにくかった技術や見方をもたらすと考えられる。そして、組織外の人々についての情報は、今後の獣医師、一般の飼い主への啓発する際に有益であることは間違いない。
さらに、研究会から社会へ情報発信（内→外）をする前に、発信したい対象のことを知っておく（外→内）ことは重要だと思われる。

以上

広報担当　岸野友祐